

原子力文化の醸成に向けた エネルギー環境教育の取り組み

2025年 8月 9日

一般財団法人



日本原子力文化財団のご紹介

昭和44年設立の原子力広聴・広報団体で
各関係機関（電力会社など）と連携し、さまざまな手法で
エネルギーや原子力、放射線などの情報提供活動を展開している団体

ロゴのコンセプト



「リンク」を意味するアイコン  をアレンジし、
情報をつなげる役割を表現
ピンクの文字は JAERO の頭文字の「J」をあらわしている
ピンク色は「育成」の意味を持ち、財団のコンセプトでもある
「次世代教育」や「次世代層の育成」の意味合いを込めている



活動実績

●パンフレット等の発行



●次世代層向け情報提供

- ・エネルギーや放射線の出前授業
- ・高校生の課題研究活動支援



●WEBでの情報提供「エネ百科」

- ・お仕事コラム
- ・原子力・エネルギー図面集
- ・ニュースでよく聞くあのはなし
- ・原子力総合パンフレットWEB版
- ・原子力防災シミュレーション など



●セミナーの開催



●世論調査の実施



自己紹介

一般財団法人 日本原子力文化財団 副長

東京理科大学 創域理工学研究科 経営システム工学専攻 客員研究員

永田 夏樹 (ながた なつき) 1992年生まれ (32歳)

【経歴】

2015年3月 北海道教育大学函館校教育学部環境科学専攻 卒業
学士論文テーマ「照射アミノ酸の緩和挙動」

2017年3月 東京農業大学大学院農学研究科国際バイオビジネス学専攻 修了
修士論文テーマ「風評被害対策に繋がる放射線教育について」

2017年4月 一般財団法人 日本原子力文化財団 入社

2017年4月～2020年3月、2022年4月～ 企画部

自主事業 高校生の課題研究活動支援事業、エネルギー・原子力に関する映像制作、
全国各地でのセミナー・講演会の運営、報道関係者向けの原子力講座 等
笹川平和財団委託事業（セミナー開催、報道関係者向けの福島視察）

＜調査関連＞

2017～2019、2022年度～ 原子力に関する世論調査 →2024年度から主担当

2020年4月～2022年3月 第二事業部

自主事業 文献調査地域でのスタディツアー、地域PRコンテンツ作成
原子力発電環境整備機構（NUMO）委託事業
・地層処分の理解に向けた選択型学習支援事業
・地層処分の理解に向けた自主企画支援事業
・北海道（寿都町、神恵内村）における理解促進活動補助事業

【趣味】

野球観戦（阪神タイガース）、飼い猫のお世話と交流（一方的な愛情を注ぐ）

原子力広報
業務経験
9年目

本日の紹介内容

1. 原子力に関する世論調査について
2. エネルギーや放射線に関する出前授業（専門家派遣）
3. 高校生の課題研究活動支援事業
4. 教育動画素材「エネルギーアカデミー」
5. 財団のエネルギー・環境教育の現状

1. 調査概要（目的、手法、実査時期）

2006年度から同じ手法で継続的に実施している全国規模の調査 原子力に対する世論の経年変化を観察できる他に類を見ない調査

調査の目的

原子力に対する世論は、事故や災害などの出来事があるごとに大きく変動する傾向がある。そのため、本調査では、全国規模の世論調査を**定点的**、**経年的**に実施し、**原子力に関する世論の動向や情報の受け手の意識を正確に把握すること**を目的として実施している。また、調査結果を基に、さまざまなステークホルダーが活用することができる情報発信方法を検討している。

調査手法

定点調査

- ・調査地域 全国
- ・調査対象者 15～79歳男女個人
- ・サンプリング 1,200人／住宅地図データベースから世帯を抽出し、個人を割当
- ・標本数の配分 200地点（1地点6サンプル）を地域・市郡規模別の各層に比例配分
- ・調査手法 オムニバス調査
訪問留置調査

実査時期

経年変化

- | | |
|--------------|---------------|
| 第1回：2007年1月 | 第10回：2016年10月 |
| 第2回：2007年10月 | 第11回：2017年10月 |
| 第3回：2008年10月 | 第12回：2018年10月 |
| 第4回：2010年9月 | 第13回：2019年10月 |
| 第5回：2011年11月 | 第14回：2020年10月 |
| 第6回：2012年11月 | 第15回：2021年10月 |
| 第7回：2013年12月 | 第16回：2022年10月 |
| 第8回：2014年11月 | 第17回：2023年10月 |
| 第9回：2015年10月 | 第18回：2024年10月 |

**2024年度
18回目
2006年度から
継続的に実施**

【委員メンバー（敬称略・50音順）】

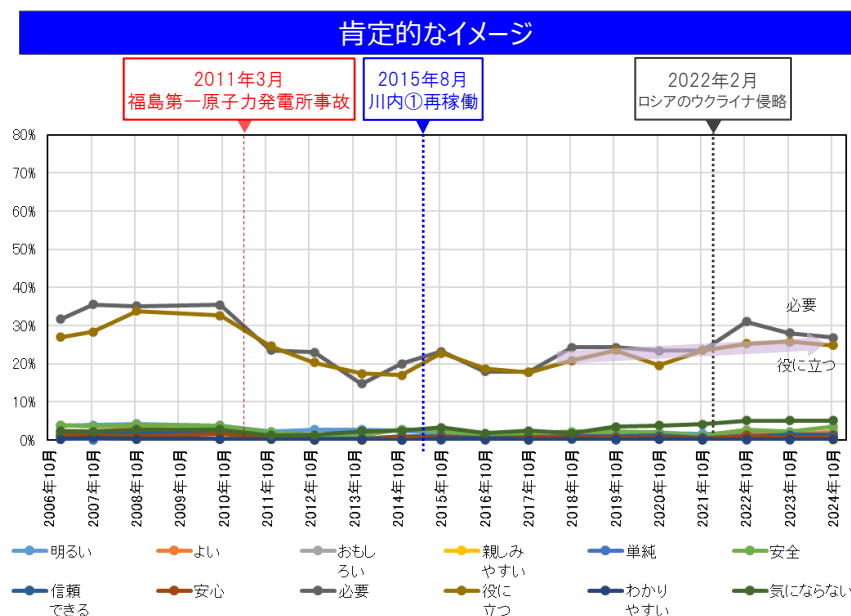
- ・飯本 武志 東京大学 教授
- ・遠藤 博則 東京都墨田区立文花中学校 校長
- ・川上 和久 麗澤大学 教授
- ・高嶋 隆太 東京理科大学 教授

【本件に関する問い合わせ先】

日本原子力文化財団 企画部（担当：宇井、有馬、政木、永田）
東京都港区芝浦2-3-31 5F TEL：03-6891-1572
mail：survey@jaero.or.jp（■を@に変えてください）

1. 原子力に対するイメージ (2006～2024年度)

問1 あなたは「原子力」という言葉を聞いたときに、どのようなイメージを思い浮かべますか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)



● 肯定的なイメージ

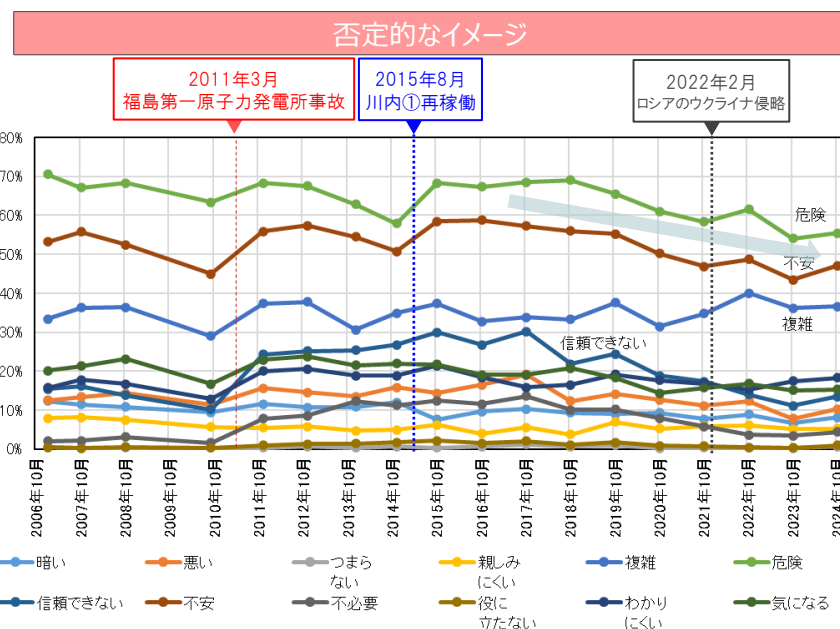
「必要」(26.8%)、「役に立つ」(24.8%)は2018年度から安定的に推移。

● 否定的なイメージ

2023→2024年度で、「危険」(55.4%)、「不安」(47.1%)で微増しているが、2017年頃からの中長期のトレンドでは、減少傾向が続いていると言える。「信頼できない」は、徐々に減少し、福島第一原子力発電所の事故以前と同程度の水準(13.2%)

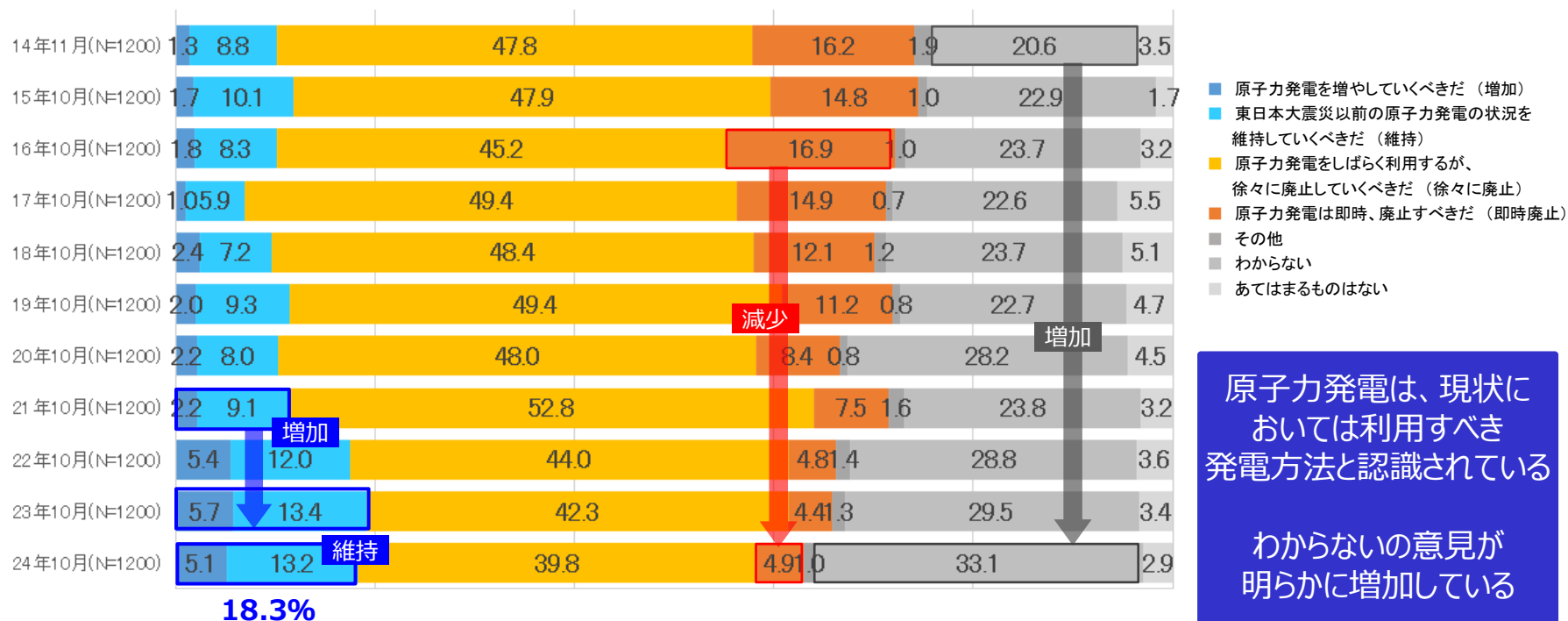
● (参考) : ポイントの変動に影響を与える代表的な出来事・ニュース

2010～2014年度：福島第一原子力発電所の事故(2011年)／2014～2021年度：新規制基準で初の再稼働(2015年)
／2021～2024年度：ロシアによるウクライナ侵略(2022年)、ALPS処理水の海洋放出を巡る世界情勢(2023年)



1. 今後の原子力発電の利用に対する考え (2014~2024年度)

問8-1 今後日本は、原子力発電をどのように利用していけばよいと思いますか。あなたの考えに近いものをお選びください。(○は1つだけ)

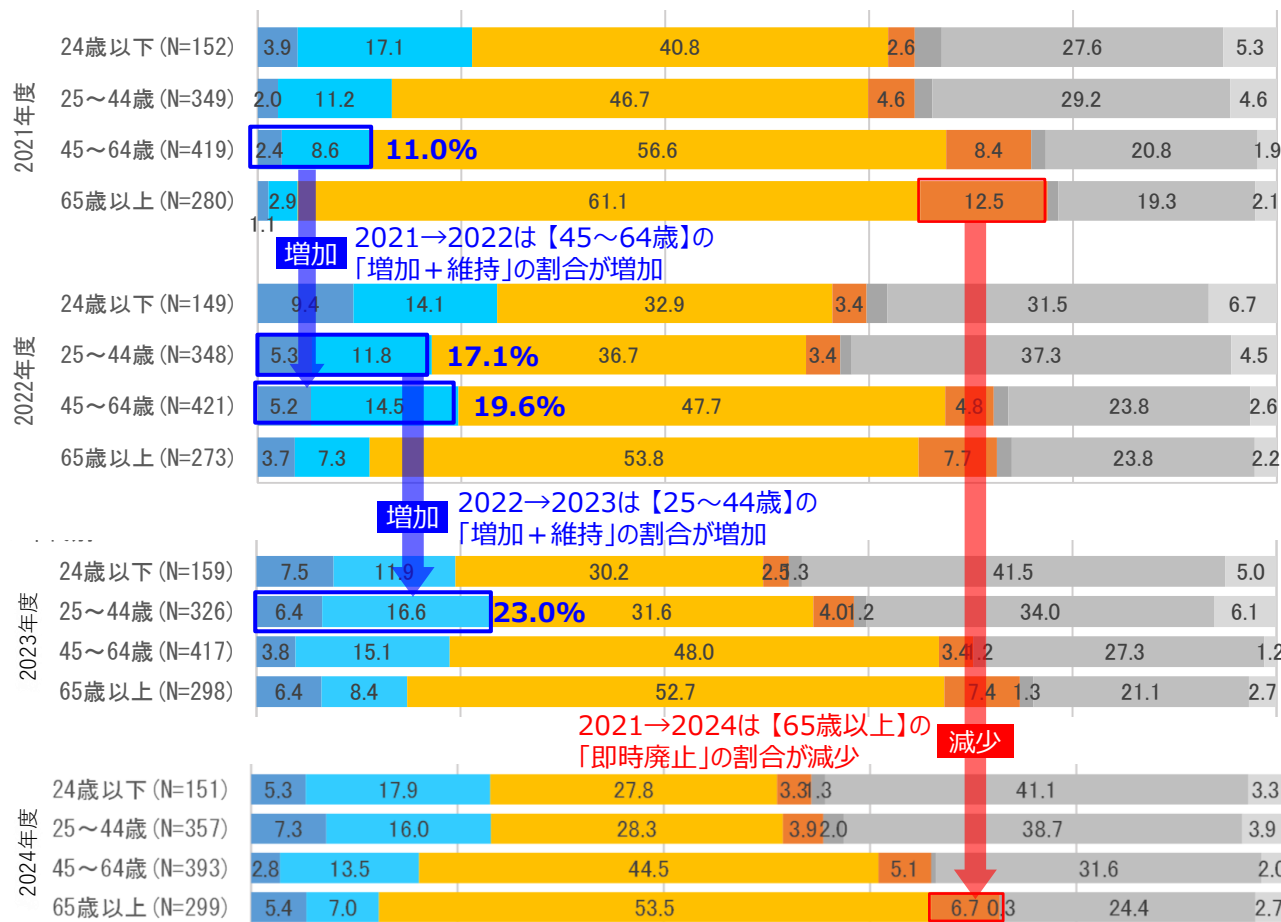


- 当面の原子力利用について容認する考えは過半数超の58.1% (「増加 + 維持」は18.3% + 「しばらく利用するが、徐々に廃止していくべきだ」の39.8%)、「即時廃止」が4.9%、「わからない」が33.1%
- 当面の原子力利用について容認する考えが過半数超であることから
原子力発電は、現状においては利用すべき発電方法と認識されていることが確認できる
- 「わからない」は、増加傾向で過去最大値の33.1%、2014年からは+12.5%
- 2016→2023年度で「即時、廃止」の割合が減少し、2021→2023年度で「増加 + 維持」の割合が増加しており、
 2024年度は2023年度の傾向を維持している

1. 今後の原子力発電の利用に対する考え (2021~2024年度)

問8-1 今後日本は、原子力発電をどのように利用していけばよいと思いますか。あなたの考えに近いものをお選びください。(○は1つだけ)

【2021~2024年度／年代】



● 2021→2024年度

65歳以上の「即時廃止」の割合が減少 (12.5%→6.7%)

全年代で「わからない」の割合が増加

24歳以下 (27.6%→41.1%)

25~44歳 (29.2%→38.7%)

45~64歳 (20.8%→31.6%)

65歳以上 (19.3%→24.4%)

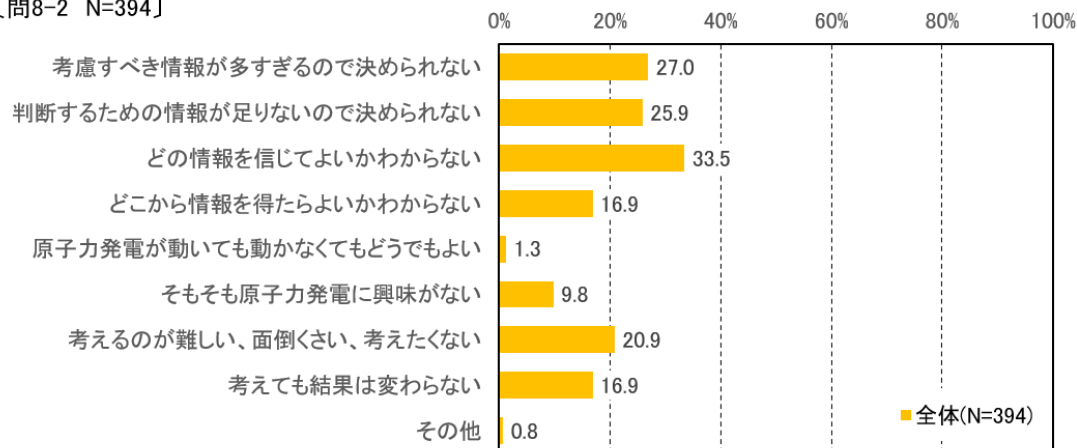
若年層は
「わからない」
という意見が多い

- 原子力発電を増やしていくべきだ (増加)
- 東日本大震災以前の原子力発電の状況を維持していくべきだ (維持)
- 原子力発電をしばらく利用するが、徐々に廃止していくべきだ (徐々に廃止)
- 原子力発電は即時、廃止すべきだ (即時廃止)
- その他
- わからない
- あてはまるものはない

1. 今後の原子力発電の利用に対する考え（2024年度）

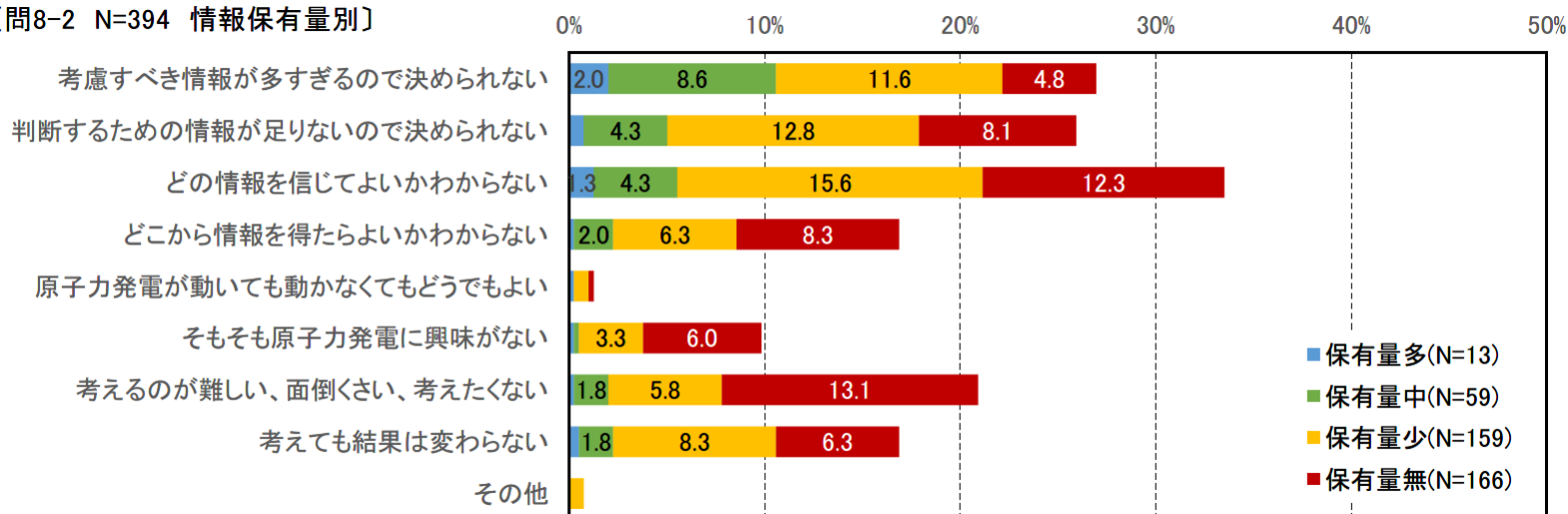
問8-2 今後の原子力利用について「わからない」と回答した理由に近いものを、以下の中からいくつかもお選びください。（〇はいくつでも） NEW

〔問8-2 N=394〕



- 最も大きい意見は、「どの情報を信じてよいかわからない」33.5%、次いで、「情報が多すぎるので決められない」27.0%、「情報が足りないので決められない」25.9%、「考えるのが難しい、面倒くさい、考えたくない」20.9%となっている。

〔問8-2 N=394 情報保有量別〕



2. ふだんの原子力やエネルギー、放射線に関する情報源（2024年度）

問16-1 ふだん原子力やエネルギー、放射線に関する「情報を何によって得ていますか」。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。（○はいくつでも）

	全体	性別		年代			
		男性	女性	24歳以下	25～44歳	45～64歳	65歳以上
全体(N)	1200	595	605	151	357	393	299
新聞	44.3	45.9	42.8	17.9	25.8	50.6	71.6
テレビ(ニュース)	75.7	76.3	75.0	57.6	68.9	78.1	89.6
テレビ(情報番組)	33.8	33.4	34.2	23.2	26.9	37.9	42.1
テレビ(ドラマ)	3.1	2.5	3.6	2.6	1.7	2.3	6.0
テレビ(CM)	5.3	5.2	5.5	4.6	3.6	4.8	8.4
ラジオ	8.7	11.1	6.3	1.3	5.0	9.4	15.7
雑誌	4.5	6.1	3.0	1.3	2.8	4.6	8.0
自治体の広報紙	7.3	8.7	6.0	1.3	5.3	7.6	12.4
事業者の広報紙	1.8	2.7	0.8	0.7	1.1	2.3	2.3
本・パンフレット	3.3	3.9	2.8	4.0	2.2	3.6	4.0
ビデオ・DVD	0.6	0.5	0.7	1.3	0.3	0.3	1.0
講演会・説明会・セミナー等	1.7	2.4	1.0	1.3	1.7	1.0	2.7
学校	4.2	3.4	5.0	25.2	2.5	0.8	0.0
PR施設等	2.7	3.5	1.8	1.3	3.4	2.5	2.7
家族、友人、知人との会話	13.3	11.6	15.0	14.6	10.9	12.0	17.4
回覧板	2.0	1.3	2.6	1.3	0.8	1.3	4.7
国、自治体のHP	5.3	6.1	4.5	2.0	6.4	5.6	5.0
原子力事業者等のHP	3.3	5.2	1.5	2.0	3.9	4.1	2.3
検索サイト上のニュース	20.8	23.4	18.3	17.2	22.7	26.5	13.0
マスコミのニュースサイト	9.4	11.1	7.8	4.0	4.8	7.9	19.7
スマホのニュースアプリ	13.4	14.3	12.6	12.6	14.8	12.7	13.0
LINE	7.3	6.7	7.8	10.6	10.1	5.9	4.0
フェイスブック	1.7	2.5	0.8	2.0	1.4	2.0	1.3
X(旧ツイッター)	8.3	9.4	7.1	24.5	11.2	5.1	0.7
Instagram	3.7	4.0	3.3	9.9	5.0	1.8	1.3
TikTok	3.6	3.0	4.1	16.6	3.6	0.5	1.0
その他SNS	0.6	0.7	0.5	1.3	0.6	0.8	0.0
メール配信	0.7	0.5	0.8	0.0	0.0	1.0	1.3
動画投稿サイト	5.5	6.9	4.1	8.6	5.6	6.4	2.7
生成AI	0.2	0.2	0.2	0.0	0.3	0.0	0.3
特になし／わからない	11.1	10.9	11.2	22.5	16.2	7.4	4.0

● 新聞、テレビ情報番組

若年層離れが目立つ（44歳以下は30%以下）

● テレビニュース

年代を問わず、日頃の情報源として定着（どの層も6割超）

【年代による差】

● 若年世代（24歳以下）

学校、X（旧Twitter）が高く、LINE、YouTubeがやや高い

→学校での情報提供とともに、SNS・インターネットで情報を得ることができる

情報体系の整備が重要

● 青年世代（25-44歳）

検索サイト上のニュース、LINE、X（旧Twitter）がやや高い

● 壮年世代（45-64歳）

テレビニュース、検索サイトのニュースがやや高い

● 高齢世代（65歳以上）

ここ数年でインターネット関連の回答が増加

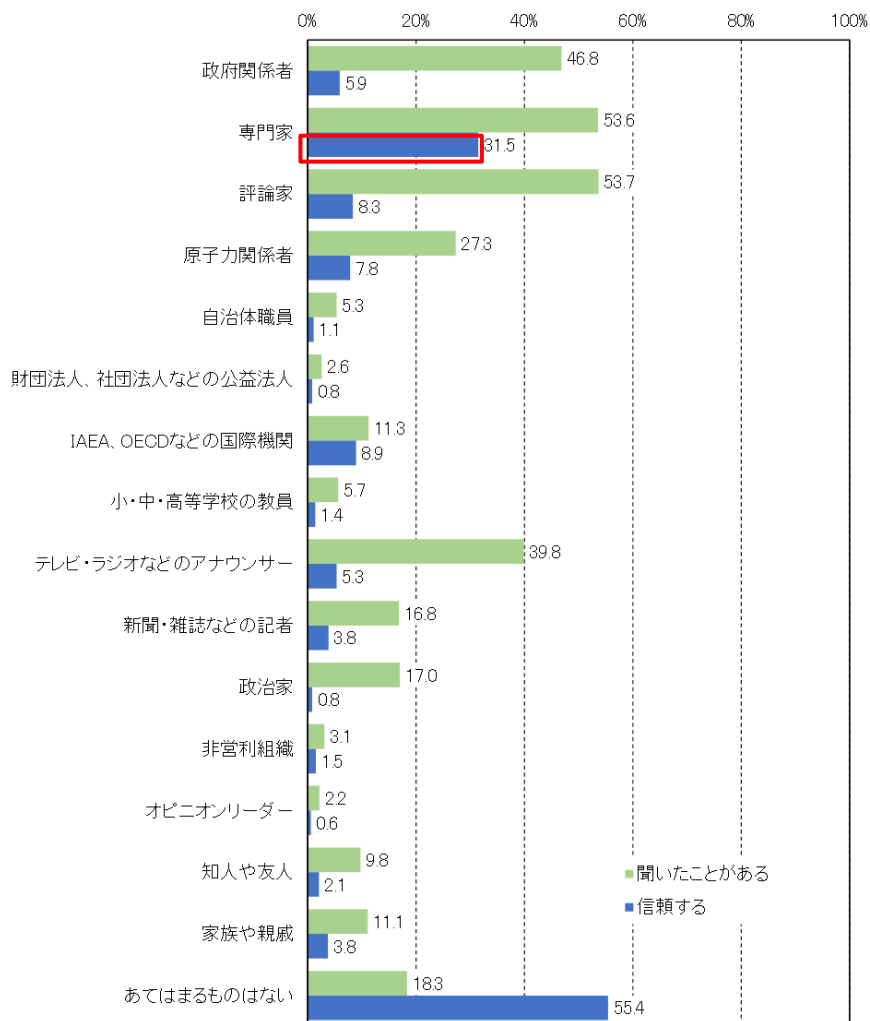
新聞、テレビニュースが高く、テレビ情報番組、ラジオ、自治体の広報紙、

マスコミのニュースサイトがやや高い

2. 情報発信者に対する信頼 (2024年度)

問17-1 原子力やエネルギー、放射線に関する情報について、どのような人や組織の発言を「聞いたことがありますか」。

問17-2 「問17-1で選択した事柄」に限らず、あなたは、原子力やエネルギー、放射線に関する情報について、どのような人や組織の発言を「信頼しますか」。
次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)



● 信頼できる情報発信者

- ・最も回答率が高い項目：あてはまるものはない (55.4%)
- ・信頼している情報発信者がいない割合が高いが、
選択された中では、**専門家 (31.5%)** が最も回答率が高い
「専門家」は、性別・年代を問わず、信頼されている割合が高い

原子力等については、専門家から
情報発信する取り組みが求められる

- ・若年世代 (24歳以下／N=151) の傾向
聞いたことがある情報発信者として
「小・中・高等学校の教員」の割合が高い (27.2%)
「**小・中・高等学校の教員**」は、若年層に対しては
情報発信のキーパーソンとなる

2. エネルギーや放射線に関する出前授業（専門家派遣）

◆原子力に関する世論調査の結果より

- ・ふだんの原子力やエネルギー、放射線に関する情報源：【若年層】は【学校】で情報を得ている割合が高い
- ・情報発信者に対する信頼：【専門家】に対する信頼度が高い、【若年層】のキーパーソンは【学校教員】

エネルギーや放射線の【専門家】を
【学校】へ派遣する出前授業を開催



全国の中学校・高等学校等を対象に
エネルギーや原子力・放射線に関する専門家を【無料】で派遣している

キーパーソンの【教員】の方々には
知識の習得のほか、
授業作りや指導の参考として
お役立ていただける内容

財団運営のWEBサイト「エネ百科」で紹介
https://www.ene100.jp/delivery_class

●開催例：エネルギー関連（高等学校）

講義「脱炭素社会に向けたこれからのエネルギー事情」



- 先生 オンラインの解説動画では取まりきらない、直接お話しできるがゆえのボリュームや説得力がありました。今後ともぜひお願いしたいです。
- 先生 ニュースで普段見聞きする話題に関して、詳しく解説していただきましたので、生徒の理解が深まったと思います。
- 生徒 再生可能エネルギーのことについて、まだ理解が深まっていない部分があったので、この機会に考えることができよかったです。
- 生徒 とてもわかりやすい授業をありがとうございました。この先、自分の行動を考え直し、改めていきたいです。
- 生徒 原子力発電には危険なもの、怖いというイメージがあったけど、うまく使えば二酸化炭素の排出量を減らすことができ、エネルギーの自給率を上げていく上でも重要なものであるとわかった。
- 生徒 放射性廃棄物などの問題は自分のこれからの生活にも関係すると思うし、知識を深めることで自分から何かアクションを起こせるようになるかもしれないと思いました。

●開催例：放射線関連（高等学校）

講義「放射線の基礎」／実習「自然放射線の測定、霧箱の観察」



- 先生 講師の先生が、地元のデータを使ってお話ししていただいたこと。また基礎的な内容をしっかりとご説明していただいたので理解がしやすく、生徒の関心が高まったと思います。
- 生徒 わかりやすい授業で、放射線をより身近に感じることができました。危険なものといった固定概念をもっていたけれど、上手に活用することで、より便利な生活にすることができ、とてもいいと思いました。
- 生徒 とても関心のある分野のお話だったので受講していて、とても楽しかったです。放射線がメディアで取りざたされているほど悪いものではないという知識はありましたが、これは身の周りの物事に利用されているというのは初めて知りました。
- 生徒 今まで放射線と聞くとなんか恐怖といった感情を抱いていました。しかし、今日の講演会で、放射線はさまざまなところで活用されており、微量なら人体には影響がないと学びました。そのため、以前までの放射線への悪いイメージを払拭して、これから生活していきたいとおもいました。
- 生徒 自分の持っている知識から発展的なことに繋がる授業でした。初めて知ったことが多かったです。

エネルギー・放射線について
「もっと知りたい！」という回答が
8割超！

3. 情報提供（イベントなど）の参加・利用（2024年度）

問18-1 原子力やエネルギー、放射線に関する情報提供（イベントなど）の中で、「これまで参加・利用したことがあるもの」はどれですか。（○はいくつでも）

問18-2 「問18-2で選択した事柄」に限らず、「今後、参加・利用したいと思うもの」はどれですか。（○はいくつでも）

参加・利用したことがある								参加・利用したい							
	全体	性別		年代				全体	性別	性別		年代			
		男性	女性	24歳以下	25～44歳	45～64歳	65歳以上					24歳以下	25～44歳	45～64歳	65歳以上
全体(N)	1200	595	605	151	357	393	299	1200	595	605		151	357	393	299
現地見学	9.9	10.6	9.3	6.6	8.1	9.7	14.0	14.0	18.5	9.6	▼10.6	14.8	14.0	14.7	
隣接PR館見学	6.2	7.7	4.6	3.3	5.0	8.4	6.0	8.7	9.2	8.1		6.6	7.6	10.2	9.0
科学館・博物館	21.5	20.0	23.0	▲28.5	▲23.2	22.1	▲15.1	17.5	17.3	17.7	▲18.5	▲21.0	16.5	14.0	
勉強会	1.3	1.8	0.8	2.6	1.7	0.8	1.0	3.8	4.9	2.8		2.6	2.8	4.6	4.7
実験教室	1.4	1.3	1.5	1.3	2.2	1.5	0.3	5.2	5.5	4.8		6.0	6.2	5.6	3.0
講演会(少人数)	0.9	1.3	0.5	0.0	1.1	0.3	2.0	1.8	2.9	0.8		1.3	1.1	2.5	2.0
講演会(大規模)	1.7	2.0	1.3	▼0.0	2.0	1.0	3.0	3.0	3.4	2.6		0.0	1.7	5.9	2.3
動画配信	7.1	8.7	5.5	▲16.6	6.2	7.1	3.3	6.4	8.1	4.8	▼6.6	7.6	7.4	3.7	
オンライン講演会	0.5	0.7	0.3	3.3	0.0	0.3	0.0	1.7	1.8	1.5		3.3	2.0	1.8	0.3
インターネットでの資料閲覧	7.3	8.7	5.8	▲13.9	9.2	5.3	4.0	5.2	5.7	4.6	▼4.0	6.2	6.1	3.3	
VR疑似見学会	0.2	0.2	0.2	0.0	0.0	0.3	0.3	6.3	5.5	7.1		8.6	7.6	7.1	2.7
あてはまるものはない	67.9	66.6	69.3	59.6	67.2	69.5	70.9	65.9	64.2	67.6		66.2	65.5	66.2	65.9

▲ 昨年度と比べてややUP

▼ 昨年度と比べてややDOWN

(%)

● 参加・利用したことがあるもの

最も回答が多い項目は、「あてはまるものはない」（67.9%）

選択された中では、「科学館・博物館の見学」（21.5%）が高い → 科学館・博物館は、原子力やエネルギー、放射線との接点をつくっている

● 参加・利用したいと思うもの

最も回答が多い項目は、「あてはまるものはない」（65.9%） → 原子力に関する知識の普及活動の大きな課題

選択された中では、「科学館・博物館の見学」（17.5%）、「発電所や関連施設の現地見学」（14.0%）が高い

→ インターネット経由より、実物を見る機会の方を望む傾向が見られる

3. 高校生の課題研究活動支援（共催：電気事業連合会）

◆原子力に関する世論調査の結果より

- ・ふだんの原子力やエネルギー、放射線に関する情報源：【若年層】は【学校】で情報を得ている割合が高い
- ・情報発信者に対する信頼：【専門家】に対する信頼度が高い
- ・情報提供の利用：【施設見学会】の参加希望がやや多い

エネルギー・原子力に関する
課題研究活動を行う【学校】を募集
【専門家】の講義・【施設見学会】の
実施などの課題研究活動を支援



●2025年度のテーマ

30歳の私へ～日本のエネルギーをどう考えますか～
目指すべき2040年のエネルギーの姿とは？

全国の高等学校・高等専門学校から
エネルギー・原子力に関する課題研究活動を行
う学校を募集し、課題研究活動を支援

専門家の講義や施設見学会の実施などの
課題研究活動、さらに、参加校との交流会、
成果発表会などを通して、情報収集力や
協調性、表現力、発信力が身につくプログラム

財団運営のWEBサイト「エネ百科」で紹介
<https://www.ene100.jp/themed-research>



↑専門家の講義



施設見学会→



交流会（グループワーク）



成果発表会



Instagram



若年層が利用するSNSで
高校生の取り組みを発信



<https://www.ene100.jp/themed-research/backnumber>

3. 高校生の課題研究活動支援

◆活動の拡がり・情報発信活動

応募条件、選定基準に成果発表会以外での情報発信を働きかけた結果、2024年度は計27件の学外・学内での活動や情報発信がなされた。

計27件の学外・学内での活動
※青字は成果発表会以降の活動

●市立札幌開成中等教育学校

第10回全国ユース環境活動発表大会北海道地方大会 優秀賞、
コズモキッズセミナー(校内)、Ezo LEAPDAY E2LAB発表会、
第13回イオンエコワングランプリ、探究チャレンジ・アジア、
集まれ！理系女子 第16回女子生徒による科学研究発表交流会、
[SSH・コズモプロジェクト研究成果報告会\(校内\)](#)、
[チカホプロジェクト](#)

●山形県立長井高等学校

夏休みドキドキサイエンスLab (校内)、
大田原高校SSH研究成果報告会 ※大田原高校のイベントに参加

●栃木県立大田原高等学校

SSH研究成果報告会 (校内) 優秀賞

ポスターセッションも特設ステージによる発表

当日の会場には多くの人が訪れ、課題研究のテーマについて、各グループが設けられた方に説明するのみならず、特設ステージによる研究成果の発表も実施。その場で会場から寄せられた意見や感想を伺い、考察や今後の課題について、詳細な解説を加えていました。



特設ステージでの発表の様子



市立札幌開成中等教育学校「チ・カ・ホ ラボ 2025 / Chikaho Lab.」ルポエネ百科にて掲載

●東京学芸大学附属国際中等教育学校

中学生サミットでの活動紹介 (NUMO自主企画支援事業)、
中学生・高校生向け 政策提案型パブリック・ディベート全国大会 (エネ庁)

●京都府立桃山高等学校

小学生向けワークショップ、令和6年度スーパーサイエンスハイスクール生徒研究発表会 (文科省)

●大阪府立豊中高等学校

豊中市高校生環境会議、小学生エネルギーワークショップ、
大阪府高等学校地学教育研究会主催 第53回地学クラブ研究発表会、
豊中市長表敬訪問での活動紹介、

[豊中高校校内最終発表会 \(校内\)](#) プレゼンアワード

●関西学院高等部

「未来のエネルギーを考える」(電気新聞、関西電力)

●山口県立宇部商業高等学校

西宇部ふれあいまつり、宇部まつり

●愛媛県立新居浜工業高等学校

電気科サミット (校内)

●筑紫女学園高等学校

[ミッションエコロジープロジェクト](#)、[廃熱利用コンテスト](#)

長内市長を訪問

令和6年(2024年)12月12日に豊中高校と刀根山高校が長内市長を訪問し、「ゼロカーボンに向けた高校生による取り組み」の活動を報告しました。
令和6年(2024年)12月15日に東京大学で「ゼロカーボン2050に向けた高校生による取り組み」の成果発表を聴いていた豊中高校の生徒から「わたしたちの発表で、みなさんが環境問題に対してなにか行動しようと思ってもらえるように頑張ります」と意気込みが語られ、長内市長から「この貴重な機会を存分に楽しんでください」と激励の言葉が送られました。



大阪府立豊中高等学校「長内豊中市長を訪問」
豊中市HPにて掲載

3. 高校生の課題研究活動支援（OB・OGの活躍）

課題研究活動支援事業を通じて原子力・エネルギーについて関心、興味をもち、大学でも同様の活動に取り組んだり、エネルギー・原子力を進路先に選択した課題研究OB・OGを紹介します。

福井南高校OG（2021～2022年度参加）

今泉 友里 さん

桜美林大学・教育探究科学群

高校1年生の時、ドキュメンタリー映画がきっかけで原子力発電所を巡る問題に関心を抱き、校内のゼミ活動で高校生の原子力に関する意識調査をはじめ。大学に進学した後も、原子力発電所や高レベル放射性廃棄物の地層処分事業に関する知見を深めつつ、異なる意見をまとめて合意形成にいたるコミュニケーションの研究を行う。



森 夕乃 さん

慶應義塾大学・総合政策学部

中学3年生の時、福井南高校で原子力発電所をテーマにした教科横断型授業が行われていることを知り、同校に入学。1年先輩の今泉さんたちのもと、高校生の原子力に関する意識調査の活動に参加。大学に進学した後も、後輩の活動を支援しながら、政策面から原子力発電所や高レベル放射性廃棄物の地層処分事業に関する研究を行っている。



高校時代の活動

2021年度 最優秀賞受賞

「意識の差—原子力発電を学校現場から改めて問い直す」

2022年度 優秀賞受賞

「原発立地地域、電力消費地域の高校も「無関心」ではない～対話の場を広げていくために～」

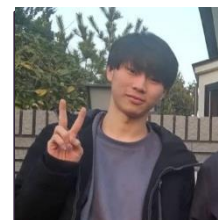


大阪府立豊中高等学校OB（2023年度参加）

西谷 光史 さん

大阪大学工学部環境・エネルギー工学科

高校2年生のときに課題研究Ⅱの授業のチームで支援事業に参加。研究活動や浜岡原子力発電所の視察を通じて、エネルギー・原子力に興味を持つ。大学受験の面接では課題研究活動支援事業の一連の活動や成果発表会での入賞経験をアピール。将来的には原子力発電所の廃炉作業に携わりたいとしている。



高校時代の活動

2023年度 審査員特別賞

「再生可能エネルギーの仕組みを物理学的にわかりやすく小中学生に説明する」



エネルギー・原子力業界への関心を深めることが、業界の人材育成に貢献！

4. (再掲) ふだんの原子力やエネルギー、放射線に関する情報源 (2024年度)

問16-1 ふだん原子力やエネルギー、放射線に関する「情報を何によって得ていますか」。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

	全体	性別		年代			
		男性	女性	24歳以下	25～44歳	45～64歳	65歳以上
全体(N)	1200	595	605	151	357	393	299
新聞	44.3	45.9	42.8	17.9	25.8	50.6	71.6
テレビ(ニュース)	75.7	76.3	75.0	57.6	68.9	78.1	89.6
テレビ(情報番組)	33.8	33.4	34.2	23.2	26.9	37.9	42.1
テレビ(ドラマ)	3.1	2.5	3.6	2.6	1.7	2.3	6.0
テレビ(CM)	5.3	5.2	5.5	4.6	3.6	4.8	8.4
ラジオ	8.7	11.1	6.3	1.3	5.0	9.4	15.7
雑誌	4.5	6.1	3.0	1.3	2.8	4.6	8.0
自治体の広報紙	7.3	8.7	6.0	1.3	5.3	7.6	12.4
事業者の広報紙	1.8	2.7	0.8	0.7	1.1	2.3	2.3
本・パンフレット	3.3	3.9	2.8	4.0	2.2	3.6	4.0
ビデオ・DVD	0.6	0.5	0.7	1.3	0.3	0.3	1.0
講演会・説明会・セミナー等	1.7	2.4	1.0	1.3	1.7	1.0	2.7
学校	4.2	3.4	5.0	25.2	2.5	0.8	0.0
PR施設等	2.7	3.5	1.8	1.3	3.4	2.5	2.7
家族、友人、知人との会話	13.3	11.6	15.0	14.6	10.9	12.0	17.4
回覧板	2.0	1.3	2.6	1.3	0.8	1.3	4.7
国、自治体のHP	5.3	6.1	4.5	2.0	6.4	5.6	5.0
原子力事業者等のHP	3.3	5.2	1.5	2.0	3.9	4.1	2.3
検索サイト上のニュース	20.8	23.4	18.3	17.2	22.7	26.5	13.0
マスコミのニュースサイト	9.4	11.1	7.8	4.0	4.8	7.9	19.7
スマホのニュースアプリ	13.4	14.3	12.6	12.6	14.8	12.7	13.0
LINE	7.3	6.7	7.8	10.6	10.1	5.9	4.0
フェイスブック	1.7	2.5	0.8	2.0	1.4	2.0	1.3
X(旧ツイッター)	8.3	9.4	7.1	24.5	11.2	5.1	0.7
Instagram	3.7	4.0	3.3	9.9	5.0	1.8	1.3
TikTok	3.6	3.0	4.1	16.6	3.6	0.5	1.0
その他SNS	0.6	0.7	0.5	1.3	0.6	0.8	0.0
メール配信	0.7	0.5	0.8	0.0	0.0	1.0	1.3
動画投稿サイト	5.5	6.9	4.1	8.6	5.6	6.4	2.7
生成AI	0.2	0.2	0.2	0.0	0.3	0.0	0.3
特になし／わからない	11.1	10.9	11.2	22.5	16.2	7.4	4.0

● 新聞、テレビ情報番組

若年層離れが目立つ (44歳以下は30%以下)

● テレビニュース

年代を問わず、日頃の情報源として定着 (どの層も6割超)

【年代による差】

● 若年世代 (24歳以下)

学校、X (旧Twitter) が高く、LINE、YouTubeがやや高い

→学校での情報提供とともに、SNS・インターネットで情報を得ることができる

情報体系の整備が重要

● 青年世代 (25-44歳)

検索サイト上のニュース、LINE、X (旧Twitter) がやや高い

● 壮年世代 (45-64歳)

テレビニュース、検索サイトのニュースがやや高い

● 高齢世代 (65歳以上)

ここ数年でインターネット関連の回答が増加

新聞、テレビニュースが高く、テレビ情報番組、ラジオ、自治体の広報誌、

マスコミのニュースサイトがやや高い

4. 教育動画素材「エネルギーアカデミー」

◆原子力に関する世論調査の結果より

- ・ふだんの原子力やエネルギー、放射線に関する情報源：【若年層】は【学校】で情報を得ている割合が高い
- ・情報発信者に対する信頼：【専門家】に対する信頼度が高い、【若年層】のキーパーソンは【学校教員】

【学校】で【学校教員】が活用できる
【専門家】が解説する中3理科の
教科書に対応した動画

中学生向け エネルギーアカデミー ～エネルギーの歴史篇～

江戸時代から現代に至るまで、暮らしに欠かせないエネルギーがどのように変化し、また、いかにしてそのエネルギーを確保してきたのかを振り返ります。それにより、さまざまな発電方法の長所や短所、エネルギーミックスの重要性などを学ぶことができる動画。指導案、授業で使用するワークシートがダウンロード可能。 **(文部科学省選定)**

電気事業連合会YouTubeチャンネル・エネルギー・環境教育支援サイト「ENE-LEARNING」で公開

企画・制作：日本原子力文化財団 <https://fepc.enelearning.jp/teaching/energyacademy/>



中学生向け エネルギーアカデミー ～私の考えるエネルギー「探究」篇～

暮らしに大きく関わるエネルギーについて、生徒たちが自ら考え、自分の意見を持てるようになることを目的とし、同世代の出演者が、電気を届ける現場の取材や、専門家へのインタビューなどを行う内容となっています。視聴する生徒たち一人ひとりが、将来の日本のエネルギーを考えるヒントとなる情報を提供する動画。指導案、授業で使用するワークシートがダウンロード可能。 **(消費者教育教材資料表彰 優秀賞)**

電気事業連合会YouTubeチャンネル・エネルギー・環境教育支援サイト「ENE-LEARNING」で公開

企画・制作：日本原子力文化財団 <https://fepc.enelearning.jp/teaching/energyacademy/>



4. 教育動画素材「エネルギーアカデミー」

義務教育の学習指導要領に沿った内容で
授業の導入に利用できる参加型の展開！

- ✓ 学校教育で活用できる教材として
- ✓ 授業実践のモデルとなる指導案を補助資料で

「エネルギーの歴史」篇

中学3年理科の単元「科学技術と人間」の中でも
主に「**エネルギーとエネルギー資源**」に対応した内容
(内容の取り扱い)

様々なエネルギー資源の利用について、人間が水力、火力、原子力、太陽光など、**多様な方法でエネルギーを得ている**ことをエネルギー資源の特性やエネルギー変換の方法と関連付けて理解させる。また、**エネルギーを有効、安全に利用する重要性**を認識させる。



教科書の詳細解説とともに
訴求したい点を動画で伝達。

訴求ポイント

- すべての面で優れたエネルギー源はない。
- エネルギー源ごとの強みが最大限に発揮され、弱みが補完されるよう、**原子力を含めたエネルギーミックス**が大切。
- 現在、我が国では、「電力の安定供給」と「脱炭素社会」の両立を通じた経済成長を実現するために、**脱炭素効果の高い電源である「再生可能エネルギー」と「原子力」を最大活用していく**こととしている。

「探究」篇 ～私の考えるエネルギー基本計画～

中学3年理科の単元「科学技術と人間」の中でも
主に「**科学技術の発展**」に対応した内容
(内容の取り扱い)

科学技術の発展と人間生活との関わり方などについて、**多面的、総合的**に捉えさせ、自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について**科学的に考察**させ、持続可能な社会をつくっていくことが重要であることを認識させる。



現在、中学校で使われているのは
2021年度版の教科書のため、
「**政府が原子力の利用・活用する方針に舵を切っていること**」など、

ここ数年の原子力に関する情勢が触れられていない。

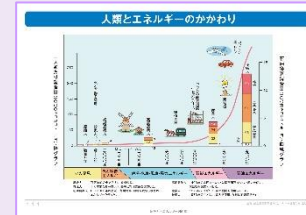
そこで、「エネルギー安定供給」、「経済性」、「環境適合」の視点で**直近のエネルギー・原子力を取り巻く情勢**について動画で伝達。

また、**エネルギー基本計画と改定ポイント**（原子力の位置付けや電源構成に占める割合）、**原子燃料サイクル、高レベル放射性廃棄物の処分**など、訴求したい点を動画で伝達。

4. 教育動画素材「エネルギーアカデミー」 教材を使った授業展開1コマ目

【導入】 5分程度

- ・授業全体の流れ
- ・そもそもエネルギーとは何か？



【動画視聴】 40分程度

クイズを交えた動画を視聴、**各発電のメリット・デメリット**の部分は停止して、**ワークシート**に記載

第1問 明治維新と石炭

第2問 大正と水力

第3問 経済発展と石油

第4問 オイルショックと原子力

第5問 東日本大震災とLNG

まとめ エネルギーミックス



授業用ワークシート

「エネルギーアカデミー エネルギーの歴史編」(理科分野)

2 それぞれのエネルギーのメリット・デメリットはどのようなものでしょうか？

エネルギーの種類	メリット	デメリット
石炭		
水力		
石油		
原子力		
LNG (液化天然ガス)		



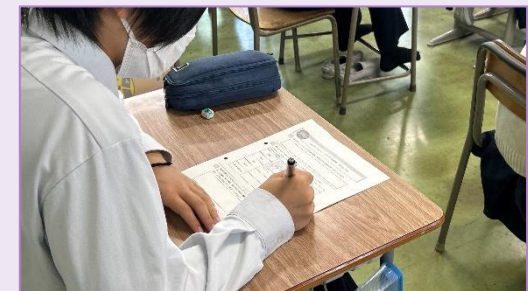
原子力

メリット

- ・少ない燃料で安く、たくさんの電気を作る
- ・発電時に二酸化炭素を出さない
- ・使った燃料を再利用できる

デメリット

- ・放射線・放射性物質の管理を厳重に行う必要がある
- ・放射性廃棄物の適切な処理・処分が必要



4. 教育動画素材「エネルギーアカデミー」 教材を使った授業展開2コマ目

【グループワーク】 40分程度

2040年度の日本の電源構成を考えよう！
エネルギーアカデミー歴史篇を視聴して見て、
どのようなエネルギーミックスを皆さんは考えますか？

グループワーク① 5分

あなたが考える2040年の日本のエネルギーミックスは？

例) 火力●%, 原子力●%, 再生可能エネルギー●%

3 あなたが考える2040年の日本のエネルギーミックスは？

例) 火力●%, 原子力●%, 再生可能エネルギー●%
なぜ、そう思ったか近くの人に説明してみましょう。



ヒント！
2022年度の日本の電源構成

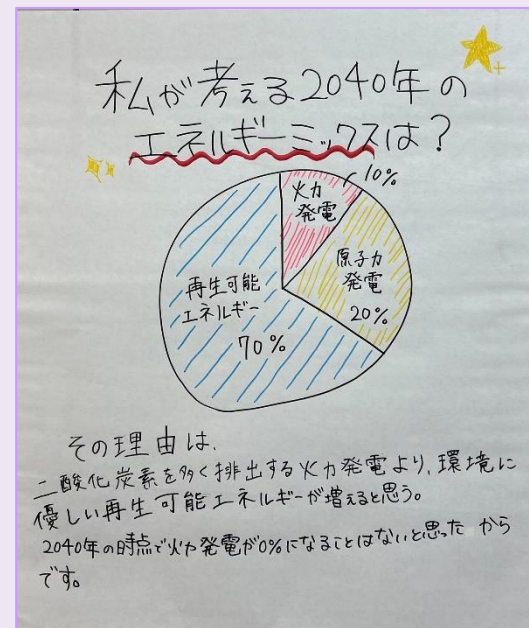
2022年度
出典：資源エネルギー庁
日本のエネルギー-2023

グループワーク② 25分

その後、●人の「グループ」で自分の考えを共有しよう！
模造紙に「グループ」の考えをまとめてみよう！

グループワーク③ 10分

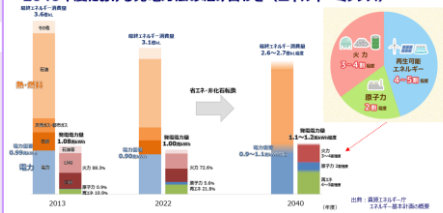
グループ毎に発表してクラスみんなに共有しよう！



【授業のまとめ】 5分程度

・第7次エネルギー基本計画 など

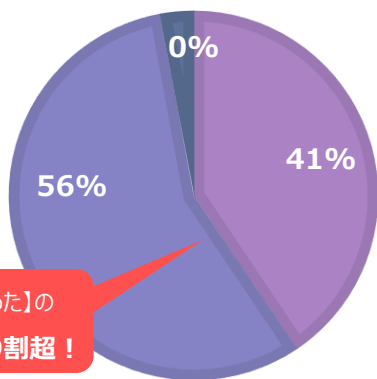
→「第7次エネルギー基本計画」(2025年2月)
国が定めるエネルギー政策の基本方針、「S+3E」を目指して3年毎に検討
2040年度における発電方法の組み合わせ(エネルギーミックス)



4. 教育動画素材「エネルギーアカデミー」 生徒アンケート（N=70）とグループワークの結果

今日の授業は分かりやすかったですか？

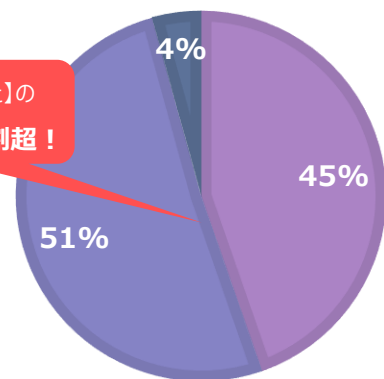
■ とても分かりやすかった ■ 分かりやすかった ■ 少し分かりにくかった ■ 分かりにくかった



【分かりやすかった】の
ポジティブ回答が9割超！

グループワークの内容はいかがでしたか？

■ とても分かりやすかった ■ 分かりやすかった ■ 少し分かりにくかった ■ 分かりにくかった

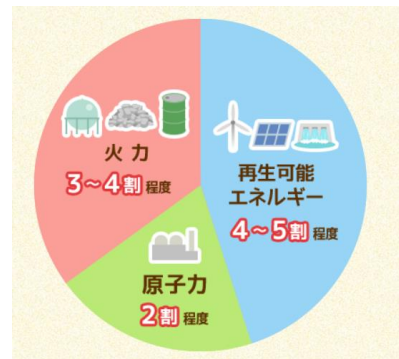
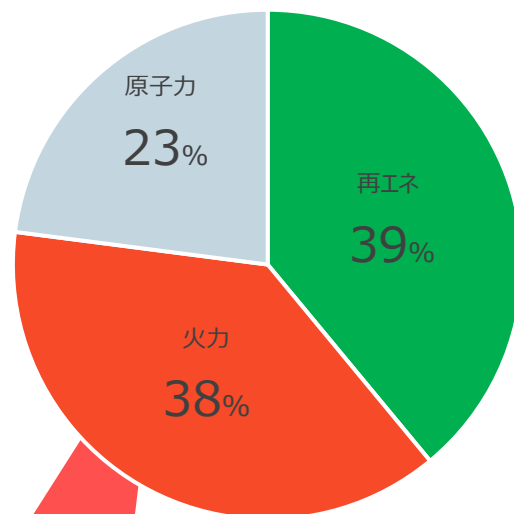


【分かりやすかった】の
ポジティブ回答が9割超！

グループワーク21チームの
平均値は第7次エネ基の目標に近い値に！

授業を通してエネルギーへの理解を高めるとともに
政策目標に近いエネルギーミックスを
議論してもらうことが出来た。

私たちの考える2040年の
エネルギーミックスは



4. 教育動画素材「エネルギーアカデミー」



文部科学省選定 (学校教材中学生向き 2023.11.15)

「エネルギーの歴史」篇



1時限で網羅できる
歴史とエネルギーの関係!

25分で
振り返る!



電気事業連合会エネルギー・環境教育支援サイト

教材について

エネルギーアカデミーは、私たちの暮らしに関わりが深いエネルギーについて深く掘り下げる「エネルギーの学校」。

本教材では、江戸時代から現代に至るまで、暮らしに欠かせないエネルギーがどのように変化し、また、いかにしてそのエネルギーを確保してきたのかを振り返ります。

それにより、さまざまな発電方法の長所や短所、エネルギーミックスの重要性などを学ぶことができます。

しかし、原子力やLNG(液化天然ガス)といったエネルギーに関する話題は、日々ニュースなどでは耳にするものの、生徒にはどこか遠い世界の話のように聞こえてしまうかもしれません。

そこで、これまで学校で習ったような歴史上の人物・出来事に関連させたクイズ形式の内容とすることで、生徒が関心を持ちやすい内容としています。

本教材は主に中学校3年生理科の単元「科学技術と人間」に対応しています。また、地理および公民の授業などでもご利用いただけます。



指導案・ワークシートも! Word版は自由にアレンジ可能



監修

株式会社ユニバーサルエネルギー研究所
代表取締役 金田 武司

墨田区立野川中学校
副校長 遠藤 博則

対応単元 理科 科学技術と人間

動画視聴・教材のダウンロードはエネラーニングから!



エネルギーアカデミー エネラーニング 検索

指導案・ワークシートはwordファイルでアレンジ可能!
是非、授業でお使いいただきますようお願いいたします!

5. 財団のエネルギー・環境教育の現状

エネルギーや放射線に関する出前授業（専門家派遣）

→生徒にエネルギー・原子力に**関心を持たせるきっかけ**となっている

高校生の課題研究活動支援事業

→エネルギー・原子力業界の**人材育成の場**として機能している

教育動画素材「エネルギーアカデミー」

→**バランスの良い電源構成を考える**ことが出来る教材となっている

→多くの場での活用へのご協力をよろしくお願いいたします！

(参考情報)

**ブース出展しています！是非、お立ち寄りください！
アンケート回答された方にはノベルティをプレゼント！**

